2019年8月28日（水曜日）のアスポに
パンの缶詰について掲載されました！

アスポ　2019年（令和元年）8月28日（水曜日）

「パンの缶詰」で被災地支援

パン・アキモト　代表取締役

秋元義彦さん

（66）＝那須塩原

災害備蓄品として知られる「パンの缶詰」。各地で災害が発生するといち早く無償で現地へ届けてきました。国内のみならず、世界でこれまでに約50万個以上が提供されています。

柔らかで長期保存が可能なパンを作ろうとコツコツと作り続け完成した「パンの缶詰」。26年前に阪神淡路大震災の被災者の方々にパンを送ったときの「焼き立てのパンが食べたい」という声から生まれました。

国内で起こる災害にはいち早い支援を行うだけでなく、防災士の資格を持つスタッフを含め、緊急時にはすぐに対応できるように、社内全体で防災意識も高めています。

学校や企業でも災害に備えた備蓄品として、広く普及が進む一方で、消費期限による食品ロスの課題には「球缶鳥プロジェクト」を立ち上げ、飢餓や貧困に苦しむ国に救援物資として届ける活動も行っています。

私たちが住む地球も生き物。日本でいえば四季折々の美しさ、恵みがあると同時に台風や地震などの自然災害のリスクもある。なにより、私たちはこの地球上に生かされていることを忘れてはいけないと強調。「災害は起こることを前提に何が必要か、備えておくべきは何か、過去の事例から賢く学ぶことを意識し、日ごろから自然と仲良く、『減災』を心掛けることが大切」と話します。

（問）同社☎0287・65・3351。